

会 議 録

会議名称	第6期幸区区民会議 第4回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）
日 時	平成29年1月31日（火）18：30～20：00
会 場	幸区役所 4階第4会議室
出席者	●区民会議委員（50音順） 阿部稔子委員（副部会長）、伊藤善通委員、大野勝彦委員、神谷修委員（部会長）、佐野禎彦委員、中原敏子委員、成川慎一委員（全体会議委員長）、松井節子委員（全体会議副委員長） ●事務局 幸区役所 田村副区長、幸区役所まちづくり推進部企画課 岸課長、吉岡課長補佐、佐藤係長、安藤職員 （株）社会空間研究所 中島氏、田上氏
欠席者	高橋希委員
傍聴者	なし
配布資料	●資料1 調査の進め方について ●資料2 川崎市シティプロモーション戦略プランの概要 ●資料3 今後の調査に向けた調査項目（調査対象団体）及び調査当日の役割分担について ●参考資料1 おこさまっぷさいわい ●参考資料2 第3回専門部会（魅力発信でつなぐ まちの活性化部会）会議録 ●参考資料3 第6期幸区区民会議委員・参与名簿 ●参考資料4 「第6期幸区区民会議」スケジュールについて
議 題	（1）調査の進め方について ア 魅力発信の目的について イ 幸区の魅力（地域資源）について （2）今後の調査に向けた調査項目（調査対象団体）及び調査当日の役割分担について

決定事項	(1) 調査の進め方について ア 魅力発信の目的について ・最終的な目的は幸区に住み続けてもらうこととする。 ・川崎市のシティプロモーション戦略プランも参考にしていく。 イ 幸区の魅力（地域資源）について ・自分たちも把握していないような幸区の魅力を発掘し、かみ砕いて伝えていく。 (2) 今後の調査に向けた調査項目（調査対象団体）及び調査当日の役割分担について <table><tr><th>調査対象</th><th>調査手法</th><th>担当者</th><th>調査項目</th></tr><tr><td>保育園に通う園児の保護者</td><td>調査票を用いたアンケート</td><td>—</td><td>事務局にて検討</td></tr><tr><td>みんなで子育てフェアさいわい(2/25)</td><td>シール投票によるアンケート及びヒアリング</td><td>午前：神谷委員、 中原委員 午後：阿部委員、 大野委員</td><td>事務局にて検討</td></tr></table> ・動物園まつりへの調査は子育てフェアさいわいの調査を踏まえて実施の可否を決定する。 ・どりーむ東小倉保育園については、成川委員が園と直接折衝する。調査手法、調査項目については事務局にて検討する。	調査対象	調査手法	担当者	調査項目	保育園に通う園児の保護者	調査票を用いたアンケート	—	事務局にて検討	みんなで子育てフェアさいわい(2/25)	シール投票によるアンケート及びヒアリング	午前：神谷委員、 中原委員 午後：阿部委員、 大野委員	事務局にて検討
調査対象	調査手法	担当者	調査項目										
保育園に通う園児の保護者	調査票を用いたアンケート	—	事務局にて検討										
みんなで子育てフェアさいわい(2/25)	シール投票によるアンケート及びヒアリング	午前：神谷委員、 中原委員 午後：阿部委員、 大野委員	事務局にて検討										
会議の内容 及び 主な発言	(1) 調査の進め方について ●事務局より資料1、資料2について説明した。 ○資料1により、前回の審議結果を確認し、調査の進め方について確認した。 ○資料2により、川崎市シティプロモーション戦略プランについて確認・共有した。 ア 幸区の魅力発信の目的について イ 幸区の魅力（地域資源）について ・30、40代をターゲットとしてどのように伝えて行くか。各団体で考える幸区の魅力とはなんだろうか。 ・幸区と川崎区の違いが薄くなっている。新川崎によって伸び盛りと言えるかもしれないが、特に川崎駅周辺で言えば、西口の発展により東口と西口でそっくりになってきた。違いがない中で何を差別化すべきか。 ・魅力というと、1つは利便性である。新川崎があつてマンションが増えてきて、子どもも増えた。幸区独自というと自然環境、夢見ヶ崎動物公園などがある。すごく強い魅力があるかということ個人的には微妙だと思う。幸区には山がなく												

	フラットであることから、お年寄りや子どもなどが動き回りやすい。 ・社会福祉協議会関係でも沢山の活動があるが、広がりがなかなかできていない。 30、40 代というと、塚越と小倉にひだまりという拠点があるが、あまり知られていない。知ってもらうことが必要だと思う。 ・陸橋を挟んで左右で環境がずいぶん違う。塚越方面はもう川崎区と重なりがあり、利便性があっていいが一方で、陸橋の向こうからこちらに来るのは利便性がよくない。30 代などでは赤ちゃんの事などで区役所に来ることが多い。日吉出張所でその機能がなくなったのは不便。若い世代の方はまだいいかもしれないが、高齢者になると辛いのでは。利便性というが、地域の中での利便性は果たしていいのか。街に出るのはいいかもしれないが、日常生活となると不便。夢見ヶ崎動物公園があるが、それ以外だと緑も少ない気がする。本当に子育てのための魅力があるのだろうか。果たして魅力発信ができているのだろうか。 ・保護司会として、(保護観察) 対象者が市内で 1 番少ないのが幸区。1 番安心・安全な区ではないか。特に川崎区から比べると対象者が 3 分の 1 くらいしかない。安心・安全なまちとして発信してはどうか。 ・あまり魅力が多くないが、区が小さくコンパクトなので散歩等で歩いて回れる。多摩川、夢見ヶ崎動物公園、ラゾーナ等がある。30、40 代の若い世代からすると、狭い範囲にお金のかからないテーマパークがあるのが大きな魅力だと思う。ただし、バスの利便性が良くないので、魅力的な場所であってもタイミングよく回れない。テーマパークとしての魅力を上げて行くようにすればもっと利用が増えるはず。どれを取っても中途半端な区だと思う。 ・確かに区内では無料で回れる場所が多い。30、40 代がターゲットだが、「夢見ヶ崎プレーパーク」の活動を見ていると頑張っている母親が多い。悪い言い方をすると、充実していないからこそ自分たちで頑張っている。その意味では、人に魅力のある区だと思う。 ・ラゾーナができる前は表川崎・裏川崎と言われていたが、できてからガラッと変わった。今では売上が日本一の商業施設となっている。駅前であって、ミューザもあってバス停も改修した。ただ、駅前に集中してしまって、川崎区とどう違うのかが難しい。駅を中心に発信して行くこともあり得る。川崎市で唯一の動物園だけでなく、川崎駅西口に東芝未来科学館がある。また、大企業が集積しているので働く場所としても 30、40 代にもやさしいのではないかな。子育てについてどんな魅力があるだろうか。待機児童、園児数などはわからないが、保育園などは結構あったような気がする。川崎区と比べて繁華街ではないので客引きなどはいないし、安心な街とも言えるかもしれない。幸区独自のものは、子育て世帯に向けての魅力とは、というのを考えていってはどうか。 ・幸区も保育園が多くなってきたと聞いた。待機児童の面で楽になったということで、こちらへ引っ越してきたという方の話も聞いた。子育て世帯が増えたこ
--	---

とにより、子育てサロンが増えている。各地域でそうしたものができているのは魅力の1つだと思う。

- ・夢見ヶ崎動物公園について、坂の上にあるので行くのが大変。交通の利便性、駐車場の整備などにも課題があるのでは。
- ・孫を連れていくにしても、駐車場がないのは致命的。土日には道路に駐車している車も多い。電動自転車でも行くのは大変。
- ・（魅力発信の目的について）30、40代に幸区に住み続けたいと思ってもらえるように、と考えている。
- ・発信というのは今あるものを発信というのではなく、どんなイベントをするか、関心を持たせるための素材というのを同時に考えなくてはならない。発信だけにこだわる必要はない。並行してテーマパークとしての機能を肉付けしていかないといけないとも思っている。
- ・既存のものや交通の便などをどう発信することで、街の活性化につなげていくか。ということを考えていく必要があるのではないか。
- ・魅力はあるようで、弱い。今ある魅力は肯定し、不足する部分などをプラス方向に掘り起こして行くという現状肯定と現状克服の両面でやっていく必要がある。
- ・今PRするターゲットとしては、市内の人か市外の人か。認識としては市内だと思う。市内の人が知らない幸区の魅力を発信することで住み続けてもらい、さらには町内会に入ってもらって活動に参加してほしいと思っている。
- ・何が魅力で新しく人が入ってきているのかというと、建物の良さもあるだろうが、交通の便があるのでは。そこに住みたいというのは交通の便が一番な気がする。
- ・今出ている幸区の魅力には利便性というのがあると思う。幸区はそれが圧倒的に強い。しかし区内で見ると陸橋の問題などもある。切り口によって強み弱みがある。いろんな切り口で強み弱みを分析するのが大事では。
- ・時間をかけて行ってもそこで十分楽しめるか。1時間費やして楽しければいいが、区内でどこへいっても1時間以内で帰ってきてしまう。魅力の逆を考えては。なぜテーマパークにならないのか。どこをどうしたらいいかという着眼点を持ち、魅力を探すだけでなく膨らませていく作業が必要。

（２）今後の調査に向けた調査項目（調査対象団体）及び調査当日の役割分担について

●事務局より資料3、参考資料1について説明した。

○資料3により、調査項目及び調査当日の役割分担について確認・共有した。

- ・子育てをされている方がどう考えるのかを、アンケートをとるか、他の方法か

で知る必要になるのではないかと思います。

- ・個人的には、「夢見ヶ崎プレーパークをつくる会」であれば、会の人に話を聞くというより、活動している現場に行ってみてほしいと思う。遊んでいる様子を見たり、雑談を通じての方が本当の声を聞けると思う。
- ・保育園などに電話して、何かの集まりの際にアンケートやヒアリングの要請をするのはどうか。
- ・アンケートだと数字を把握できる。グループインタビューがいいと思っているが、そのサンプリングが最も重要。ただ、生の声を引き出すのはやや難しいと思う。一番捕まえやすいのは PTA だと思う。数年前まで孫が保育園児などの未就学児だった世代なので、幅広く意見を取れる。近所の保育園については、町内会を通じて協力関係のある園だから協力を得やすいだろう。いろんな選択肢から絞ってやるのがいい。
- ・子育てフェアは女性が（担当するのが）良いのではないかと思います。
- ・（子育てフェアでは来場者にもアンケートを実施しているので）アンケートが多いから、負担を増やすというのはどうだろうか。
- ・アンケートにシールで答えてもらい、その後ヒアリングするという形はどうだろうか。
- ・動物園まつりに行く人は外に出ることに興味を示す人なので、他の魅力の視点なども教えてもらえるのではないか。
- ・時間的に可能なら両方（子育てフェアと動物園まつり）に行ってもいいのではないだろうか。
- ・市のシティプロモーション戦略プランをそのまま拝借できるのでは。魅力などを補完すればそのまま使える。
- ・魅力という言葉に当てはまらないものもアンケートにする。良いところだけでなく悪いところも拾うとよいのではないか。
- ・私が息子の嫁やそのつながりなど個人的にグループインタビューを依頼しようかと思う。可能であれば連絡する。
- ・最終的な目的としては、住み続けてほしい。我々も知らないような幸区の魅力をかみ砕いて伝える。住んでいる上では住みやすい、交通の利便性もそうだし、商業集積もありますよ、という形。幸区は平坦でフラットな地域で、保育園幼稚園も充実している、という発信を子育て世代にしていければ。
- ・目的は、市のシティプロモーション戦略プランで示されている形に近いと思う。

以上